

# 韓国日本語学会 ニュースレター [2018-01]



発行人：李吉鎔 / 編集人：朴江訓・孫榮爽・中村有里 / 発行所：韓国日本語学会 / 発行日：2018. 1. 5.

学会長挨拶	.....	1
役員名簿	.....	2
会員情報	.....	5
その他の学会ニュース	.....	7
学術大会結果報告	.....	9
協力研究会ニュース	.....	10
常任理事会結果報告	.....	13
編集委員会経過報告	.....	14
『日本語学研究』論文投稿案内	.....	15
学会ホームページ案内	.....	20

중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실  
 〒06974 서울시 동작구 흑석로 84  
 中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室  
 〒06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84  
 H.P : 010・9028・6609(事務局長:趙容蘭)

E-mail : [jlak123@hanmail.net](mailto:jlak123@hanmail.net)      Homepage : <http://www.jlak.or.kr>

## 学会長挨拶



韓国日本語学会会員の皆様

2018年、希望に満ちた一年が明けました。

これまで「核実験、サード配置、地震」等、人災と天災による激動が続いてきた東アジア情勢も安定が望まれます。「湖が平穏でこそ鴨も平穏にいられる」という諺がモンゴルにあるそうですが、本年は、私たちが平穏な環境の中で研究と教育に専念したいものです。

昨年10月より第10代執行部が発足し、学術誌54集の発刊、2018年3月の学会の準備等で、奔走しております。何一つ容易いことのない決断の連続でしたが、会長団(会長・副会長・編集委員長)及び関係部門の理事の皆様と知恵を結集し、解決してきました。「意志あるところに道が開ける」という格言を改めて実感しております。

第10代執行部が実質的に活動することとなる本年は、学会レベルで会員一人ひとりの勇気と挑戦を応援いたします。「やるべきだ」「やれる」という不退転の覚悟で、「きつうまく行く」という希望を持って、学会と連携協力研究会に積極的にご参加いただけましたら有り難く存じます。そして、大変な時は、何もせずともただ共に集い共に語ることができればと思います。

学会執行部は、過去の栄光に安住せず、学会と会員の實力向上のために、現実を直視して好機を逃さないよう努力します。学会のビジョンとリーダーシップは、大学という「大河」でのみならず、企業という「大海」にも求めていきたいと思えます。「能力のある人はいかなる状況をもチャンスとみなす。問題が大きければ大きいほど、チャンスもまた大きくなる。」と喝破した人がいますが(Grant Cardone, <The 10X Rule>), これは今の私たちに向けられた言葉のように感じられます。

2018年は、これまで50年間余り続いてきた終身雇用の崩壊という危機的要素と、情熱と能力がものを言う新社会というチャンスの要素が共存する時期であると思えます。学会は保守的な所ですが、変わりゆく時代の最前線で活動しなければならないと確信しております。持続可能な教育・研究システムの創出に全力で取り組んでまいります。会員の皆様におかれましても、積極的なご参加をお願いいたします。なお、第10代執行部の初の行事であります第36回国際学術大会が3月24日(土)東國大学校にて開かれる予定です。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

会員の皆様、また皆様のご家族にとりまして幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

2018年(戊戌年)元旦  
 韓国日本語学会第10代会長 李吉鎔

## 役員名簿

### ■常任理事

役職	氏名	所属	E-mail	
会長	李吉鎔	中央大	ih_kilyong@cau.ac.kr	
副会長	學術	盧姓鉉	德成女大	chel99@hanmail.net
	研究	黃永熙	漢陽サイバー大	tohyh@hanmail.net
	教育	早矢仕智子	大真大	tomomokankoku@hotmail.com
	編集	高慧禎	カトリック關東大	nunbusida@hanmail.net
	事業企画	南得鉉	明知専門大	aruiru@hanmail.net
総務	河在必	韓國外大	hajp75@hufs.ac.kr	
	全紫蓮	韓國外大	shizen9021@daum.net	
財務	張允娥	中央大	willyoubehere@gmail.com	
	林始恩	韓國外大	lse923@naver.com	
學術	琴鍾愛	忠南大	jakeum@cnu.ac.kr	
	高恩淑	韓國外大	haimosimosi@hanmail.net	
	宋股美	白石芸大	yaltoo@hanmail.net	
	郭銀心	京畿大	kwak5017@naver.com	
編集	金義泳	德成女大	cara202@gmail.com	
	姜美善	漢陽女大	haruaki2070@hanmail.net	
	辛銀真	明知大	shineunjin.kr@gmail.com	
	鄭賢児	西京大	nabinabi75@naver.com	
出版	方允炯	水原大	yh-bang@hanmail.net	
	朴孝庚	漢陽サイバー大	phk0502@hanmail.net	
情報	国生和美	東國大	kazumi0121@naver.com	
	張良光	カトリック大	kwang-kana@hotmail.com	
	崔惠貞	建國大	elli-c@hanmail.net	
広報	朴江訓	全州大	hun0531@naver.com	
	中村有里	仁川大	yoolee1220@yahoo.co.jp	
	孫榮爽	濟州大	freewill1472@naver.com	
国際	本多美保	梨花女大	mhonda@naver.com	
	李竣瑞	聖潔大	korjs2@gmail.com	
	趙宣映	培材大	sy218@pcu.ac.kr	
対外協力	海外	Lee,Duck-Yong	The Australian National Univ.	duck.lee@anu.edu.au
		盛文忠	上海外國語大学	swz_42281@163.com
		鄭惠先	北海道大学	jung@oia.hokudai.ac.jp
		金庚芬	明星大学	kimkb@ge.meisei-u.ac.jp
		朴秀娟	神戸大学	parksooyun@gmail.com
	国内	金照雄	時事日本語社	marketing1@korea.com
		宋惠仙	仁徳大	shs1023@induk.ac.kr
		趙恩英	啓明大	choeun215@gmail.com
		殷守希	淑明女大	esh0407@naver.com
		川口慶子	崇實大	keikochan922@hotmail.com
事業企画	企業部	尹榮珉	延世大	marchen52@naver.com
		角ゆりか	明知大	whitelily1227@hotmail.co.jp
		金志姫	カトリック大	jiheekim2002@gmail.com
	研究部	金恵娟	建國大	mahou@hanmail.net
		岩井朝乃	弘益大	asano-iwai@msc.biglobe.ne.jp
		李相怡	東國大	zzivi@hanmail.net

### ■一般理事 (国内：가나다順, 海外：五十音順)

<国内>		
檢校裕朗(極東大)	權寧成(清州大)	金榮敏(同徳女大)
金平江(祥明大)	朴才煥(京畿大)	白同善(江原大)
酒井真弓(徳成女大)	迫田亜希子(ソウル女大)	朴真順(蔚山科学大)
朴英淑(水原科学大)	成琬珂(祥明大)	孫在賢(徳成女大)
宋正植(仁荷工専)	梁敏鎬(聖潔大)	魚秀禎(啓明大)
吳炫定(建国大)	元智恩(崇実大)	李承英(光云大)
石井奈保美(徳成女大)	李忠奎(西原大)	張根寿(祥明大)
鄭起永(釜山外大)	鄭相美(新羅大)	鄭采美(韓国観光大)
鄭夏俊(湖南大)	蔡京希(培花女大)	蔡盛植(高麗大)
韓中瑄(U1大)	黄圭三(瑞逸大)	
<海外>		
磯野英治(名古屋商科大学)	李在鎬(早稲田大学)	井出里咲子(筑波大学)
宇都木昭(名古屋大学)	沖裕子(信州大学)	荻野綱男(日本大学)
生越直樹(東京大学)	奥野由紀子(首都大学東京)	落合由治(台湾・淡江大学)
大塚薫(高知大学)	吳惠卿(国際基督教大学)	金愛蘭(広島大学)
金蘭美(横浜国立大学)	金昂京(福岡大学)	金廷珉(麗沢大学)
工藤真由美(大阪大学)	Daniel Long(首都大学東京)	全永男(中国・延辺大学)
張威(中国人民大学)	名嶋義直(琉球大学)	中井陽子(東京外国語大学)
中山亜紀子(佐賀大学)	西尾純二(大阪府立大学)	野田尚史(国立国語研究所)
深見兼孝(広島大学)	松丸真大(滋賀大学)	村上敬一(徳島大学)
羅曉動(台湾・銘伝大学)	森山新(お茶の水女子大学)	山内博之(実践女子大学)
李東哲(浙江越秀外国语学院)		

### ■監事

氏名	所属	E-mail
姜昃完	国民大	kwkwang@kookmin.ac.kr
李善姬	ソウル女大	shlee@swu.ac.kr

### ■事務局長

氏名	所属	E-mail
趙容蘭	中央大	yclovely@nate.com
梁乃允	中央大	ynaeyun@hanmail.net

■編集委員会

委員長：李恩美(明知大)

監事：辛銀真(明知大)

<p><b>音声学 音韻論</b></p>	<p>関光準(建國大) 孫在賢(徳成女子大) 鄭炫赫(サイバー韓国外大) 戸田貴子(早稲田大学/日本) 高慧禎(カトリック關東大)*</p>	<p><b>語用論 社会言語学</b></p>	<p>洪珉杓(啓明大) 金庚芬(明星大学/日本) 元智恩(崇實大) 荻野綱男(日本大学/日本) 生越直樹(東京大学/日本) 盧姪鉉(徳成女大) 鄭賢児(西京大)*</p>
<p><b>通時論 形態論</b></p>	<p>権勝林(崇實大) 張根寿(祥明大) 裴銀貞(釜山外大) 金廷珉(麗沢大学/日本) Lee,Duck-Yong(The Australian National Univ./豪州) 朴江訓(全州大)*</p>	<p><b>日本語教育</b></p>	<p>落合由治(淡江大学/台湾) 李美淑(明知大) 趙英南(高麗大) 鄭相美(新羅大) 金義泳(徳成女子大)*</p>
<p><b>意味論 語彙論</b></p>	<p>塩田雄大(NHK放送文化研究所/日本) 李慈鎬(慶北大) 張元哉(啓明大) 李羽濟(白石藝大) 姜美善(漢陽女子大)*</p>	<p><b>日本語史</b></p>	<p>尹幸舜(ハンパット大) 羅工洙(嶺南大) 呉美寧(崇實大) 閔丞希(中源大) 林禎映(全南大) 朴孝庚(漢陽サイバー大)*</p>
<p><b>その他 日本語学</b></p>	<p>李朱利愛(梨花女大) 盛文忠(上海外国語大学/中国) 相沢由佳(聖潔大) 鄭惠先(北海道大学/日本) 梁敏鎬(聖潔大) 辛銀真(明知大)*</p>	<p>◆「*」は実務担当編集委員(実務委員)、 そのほかは審査担当編集委員(査読委員)である。</p>	

会 員 情 報

○ 図書及び教材(教科書)出版情報

・持田祐美子・伊藤貴雄・及川ひろ絵・伊吹早耶香「日本語作文コーチング:中・上級」(時事日本語社、2017年)

○ 学位取得

・小松義貴 会員

学位取得:ソウル大学校大学院心理学博士学位取得(2017.8)

題目:視線追跡を通じた日本語読解で見られる中心と周辺の意味処理研究

就職:ソウル大学校言語教育院言語能力測定センター専任研究員

(外国語教育センター講師及び社会科学大心理学科講師兼任)

・梁乃允 会員

学位取得:中央大学校大学院文学博士学位取得(2017.冬)

題目:日本語中間言語におけるノダの特性—仮説検証型研究の試み—

就職:中央大学校講師

○ 受賞

・鄭相哲(韓国外大)会員が、教育・研究分野において国際的に活躍している卒業生を対象に授与される「Osaka University Global Alumni Fellow」(2017年3月)を授与されました。

・孫在賢(徳成女子大)会員が、金田一京助博士記念賞を受賞しました。朗報を共有すべく、以下に関連記事を引用します。

孫在賢(ソン・ジェヒョン)教授「金田一京助博士記念賞」  
韓国人初の受賞

日本語学界最高の権威が評価…「周時経記念賞を外国人が受賞するに等しい」



徳成女子大 日語日文学科 孫在賢教授

[孫在賢教授 提供=聯合ニュース]

【ソウル聯合ニュース】 ファン・ジェハ記者= 徳成女子大日語日文学科孫在賢教授が韓国人として初めて、日本語学界で権威ある「金田一京助博士記念賞」受賞者に選ばれた。

金田一京助記念会は11月12日、「審査委員会の厳正なる審査の結果、孫教授の著書『韓国語諸方言のアクセント体系と分布』」に第45回記念賞を授与することに決まった」と発表した。授賞式は12月17日に東京で行われる。

現在マサチューセッツ工科大(MIT)言語学科の客員教授を務めている孫教授は、聯合ニュースに対し、メールで「権威ある賞を受賞できてうれしい」とコメントした。

孫教授は、「今回受賞した本は、韓国語のアクセント体系と分布をまとめたもの」であり、「これまで日本語に比べて韓国語のアクセントに関する研究は活発に行われてこなかったと言える」と説明した。

韓国外大を卒業し、東京大で言語学修士・博士号を取得した孫教授は、韓国日本語学会理事を歴任し、東アジア日本学会に論文を発表する等、地道な研究活動を続けてきた。

「金田一京助博士記念賞」は、日本の著名な言語学者である金田一京助(1882~1971)の名を冠して設けられた。金田一京助は、日本国内の少数民族であるアイヌ民族の言語研究に貢献した学者として広く知られている。

韓国日本語学会会長である李吉鎔中央大アジア文化学部教授は、「日本言語学界での金田一京助の位置付けを考えれば、孫教授の今回の受賞は、韓国で周時経先生を記念する賞を外国人が受賞したようなものだ」と評価した。

jaeh@yna.co.kr

## ○ 事務局

〒06974 서울시 동작구 흑석로 84

중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실

〒06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84

中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室

E-mail : [jlak123@hanmail.net](mailto:jlak123@hanmail.net) Homepage : <http://www.jlak.or.kr>

● 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 884201-04-150294 이길용(한국일본어학회) 李吉鎔(韓国日本語学会)

・韓国日本語学会では海外団体会員(台湾日本語学会、日本国立国語研究所、国際交流基金日本語国際センター)に定期的に学術誌を発送しています。個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌([http://jlak.or.kr/modules/doc/index.php?doc=search&\\_M\\_ID=27](http://jlak.or.kr/modules/doc/index.php?doc=search&_M_ID=27))よりダウンロードできますのでご利用ください。

## その他の学会ニュース

### 1. 韓国日本語学会2017学術賞

○韓国日本語学会学術賞は、学術誌『日本語学研究』に多くの研究者が優れた論文を投稿するよう促し、学会員の学術活動を奨励するとともに研究の発展に寄与することを目的とする。本学術賞は2015年1月から2016年12月までの2年間『日本語学研究』に掲載された論文を対象として、次の2つの論文を選定した。

(1) 中堅研究者: 李吉鎔(中央大学校)

ポライトネス理論からみた韓・中・日の言語行動の相互評価

(『日本語学研究』 第46輯, 2015年 12月)

(2) 新進研究者: 李忠奎(西原大学校)

バラエティ番組の字幕に関する日韓対照言語学的研究

(『日本語学研究』 第43輯, 2015年 3月)

○韓国日本語学会2017学術賞 受賞論文選定結果(学術賞選定委員会 関光準 委員長)

(1) 中堅研究者: 李吉鎔(中央大)

選定理由: 言語行動に関する国際的な比較研究は、これまで、言語行為が当該言語社会でどのような様相を呈しているかに関する実態の記述と、当該国家間の相違点と共通点を提示する対照社会言語学的観点から行われてきた。しかし、本論文は、異文化間の接触やコミュニケーションで誤解や摩擦を減らすためには、言語行動自体の実態調査よりも各々の言語行動に対する「相互評価」が重要であるという点に着眼し、言語行動研究の新しい観点を提案したという点で高く評価できる。

本論文は緻密な資料分析に基づき、近年接触の機会が増えている韓国人、日本人、中国人を対象に、依頼-釈明-断りという目的志向的な言語行動の評価をフェイスを脅かす行為(face-threatening act, FTA)という観点から考察した。本論文の研究の方法論及び結果は、関連研究者たちに多くの知見と示唆を与えると期待され、また、実際の日・中・韓間の異文化コミュニケーションシステムの理解と相互言語教育に極めて有用に活用され得ると思われる。

(2) 新進研究者: 李忠奎(西原大)

選定理由: 本論文は、綿密に立てられた研究計画に基づき、適切な資料収集と研究結果に関する非常に具体的かつ論理的な考察を通じて、これまで研究が進んでいなかった韓国と日本のバラエティ番組の字幕を取り上げ、対照言語学的観点から共通点と相違点を実証的に明らかにしたという点で意義がある。具体的には、短音節数字幕や内心字幕、連体形止め字幕、子音活用字幕等が日本のバラエティ番組より韓国のバラエティ番組でより頻繁に使われるという点を研究結果として提示しており、今後の同分野の研究に多くの示唆を与えている。

### 2. MOU締結

2017年9月23日韓国青年国際交流機構(代表:釜山外国語大学 鄭起永教授)と交流協定を結びました。

### 3. 謹弔旗作成

韓国日本語学会常任理事会名義で謹弔旗を作成しました。発送対象は現任執行部の親類縁者及び歴代会長団の親類縁者となります。近しい方に訃報がありましたら、事務局もしくは会長団までご連絡ください。発送対象の判断が難しい場合は、ひとまずご連絡くだされば、検討させていただきます。



### 4. 姉妹学会学術大会

台湾日本語学会国際学術大会が2017年12月16日、輔仁大学にて「社会的役割を果たす日本文学研究の推進」という主題で開催されました。朴孝庚出版理事が代表で参加しました。

### 5. 会長団と各種委員会顔合わせ

2017年12月1日(金)、鐘路の銀杏の木(은행나무)食堂にて、会長団と各種委員長の顔合わせの場を設けました。各種委員会の活動の方向性について話し合いを行いました。

### 6. 2018年3月春季学術大会発表者募集

2018年3月24日(土)、東国大にて春季学術大会が開催される予定です。発表を希望される方は [jlakstudy@naver.com](mailto:jlakstudy@naver.com)(学術理事)までお問い合わせ・お申し込みください。発表申し込みの締め切りは、2月3日(土)となります。

## 学術大会結果報告

### 【第36回 国際学術大会 結果報告】

- 日時：2017年 9月 23日(土)
- 場所：白石芸術大 校
- 「日本語学をどのように研究し、教授すべきか—日本語学研究及び教育方法の模索—」という主題で、信州大学の沖裕子先生の招聘講演が行われ、多くの会員が参加し、成功裏に終了しました。
- 白石芸術大 校のご協力に感謝いたします。



### 韓國日本語學會 第36回 國際學術發表大會論文集 Proceedings of the 36th General Meeting of the JIAK

September 23, 2017

일본어학 어떻게 연구하고 가르칠 것인가  
日本語学をどのように研究し 教授すべきか

2017年 9月 23日(土)  
白石芸術大 校

主催：韓國日本語學會  
主幹：韓國日本語學會・白石芸術大 校  
後援：白石芸術大 校・日本國際交流基金ソウル日本文化センター  
時事日本語社・日本語検定協会J.TEST韓國事務局

韓國日本語學會  
The Japanese Language Association of Korea

## 協力研究会ニュース

### ㊦ 韓国日本語研究会 ㊦

韓国日本語研究会は、2013年3月から活動を始めた韓国の日本語関連研究者たちの会です。1990年代後半から約10年間活発に活動を続けてきたにも関わらず、どうい理由からか残念なことになってしまいました「日本語研究会」の観点と方向性を受け継ぎ、再出発をした形となります。韓国日本語学会とは2016年から連携協力協定を締結し、相互協力的な関係で活動してきました。

研究会の目的と趣旨は、「大学院生の順調な成長のための発表と討論、及び学習と指導の場、博士レベルの新進研究者の適応とさらなる成長のためのインキュベーターの役割を果たす場、大学院生・新進研究者・中堅研究者・ベテラン研究者間の連携とコミュニケーションを通じた研究活性化の場」を設けることで、毎回、昼は学問的交流のための発表と討論の場を、発表会終了後は夜遅くまで人間的な交流を中心としたコミュニケーションの場を設けています。

これまで第1回(2013年5月25日、淑明女大)から第10回(2017年7月21日、東國大)に至るまで、様々な大学を回る形で年2～3回の研究会を開催してきました。主な発表コンセプトは、大学院生の修士・博士論文の構想の発表、新進研究者の博士論文の発表、中堅研究者の著書の発表、日本語関連の企画セミナー、その他各種研究発表などです。

研究会の活動に関するあらゆる情報とニュースは研究会のサイト(<http://cafe.daum.net/-KJS->)に掲載しています。ぜひ一度こちらで研究会の多様な活動の様子をご覧くださいと思います。また、オフラインの研究会にも、ご関心をお寄せくださる多くの研究者の皆様のご参加をお待ちしております。

\*サイトに連絡先(メールアドレス)をご記入くだされば、次回の研究会の情報をお送ります。

㊦ 韓国日本語研究会サイト：<http://cafe.daum.net/-KJS->



### ㊦ 日韓コミュニケーション研究会 ㊦

私ども日韓コミュニケーション研究会は、2013年5月に「在韓待遇コミュニケーション勉強会」として発足し、2014年10月には学術研究活動に重きを置くべく「在韓待遇コミュニケーション研究会」に名称を変更しました。さらに、同年11月には、待遇コミュニケーションだけでなく広く日韓のコミュニケーション全般に関わる研究に取り組んでいく趣旨のもと「日韓コミュニケーション研究会」へと名称変更をし、今日に至ります。

2017年12月現在、会員は7名在籍しています。その内訳は、韓国会員1名、日本人会員6名、また、韓国在住会員5名、日本在住会員2名となっています。

毎年9月を活動開始時期に設定し、1年間で何らかの成果を出すこと(学会発表、論文投稿、教材出版等)を目標に、2～4名からなる分科会に分かれ、共同研究に取り組んでいます。また、年4回(9月、12月、2月、6月)全体会を実施し、各分科会の研究の進捗状況の報告や情報交換、会員による学術発表などを行っています。

今年の9月に開かれた韓国日本語学会第36回国際学術発表大会では、本研究会に在籍する中村有里先生(仁川大)・及川ひろ絵先生(弘益大)・藤田智彦先生(関西大)が「親しい友人にものを借りる際の意識の日韓比較：大学生を対象として」というテーマで、また、持田祐美子先生(平澤大)・伊藤貴雄先生(弘益大)が「教材作成から得られる学術及び教育的視点の一例：『脱！韓国語的日本語脱出マニュアル』を例として」というテーマで、口頭発表をしました。

今後も、韓国日本語学会主催の学術行事に積極的に参加し、韓国における日本語関連の研究及び教育の発展に力を尽くしていきたいと思ひます。



2017年9月の全体会

## 📖 韓国OPI研究会 📖

韓国OPI研究会では、本年度より新しく「研究助成金制度」を始めました。OPIに関連した研究に助成を行うことで研究活動を活性化させる狙いです。今年から積極的に研究活動を行っており、2017年8月に台湾の淡江大学で行われた2日間のOPI国際シンポジウムにて、韓国の会員から4組の研究発表、ポスター発表、パネル発表を行いました。

まもなく2018年度の研究助成金制度申し込み、および審査が行われます。会員でない方も会員と共に研究を行うことで助成金制度申し込みは可能です。OPIにご興味のある方は、ぜひ一度年4回行われている研究会にお越しください。

2018年度も、さらなる研究活動の支援を行いながら韓国日本語学会での発表、論文投稿などを積極的に行いたいと思っています。よろしくお願いいたします。（写真：台湾国際シンポジウム関連3枚）



2017年度第11回OPI国際シンポジウム(台湾大会)  
テーマ 双方向教育における教師と学生のあり方

日本語教育だけでなく、  
教育全体から考えるために

講演の部 2017年8月4日(金)  
時間:2017年8月4日～5日(金、土)  
場所:台湾・淡江大学淡水校園  
<http://www.oapi.or.jp/>

台日教育改革の風雲児

張輝誠  
● 学・思・達アプローチで現場の教育改革  
● 台湾で最初の教室公開者  
● アジアの中華圏での教育改革先駆者の一人

佐藤学  
● 学校改革の第一人者  
● 学びの共同体の提唱者  
● 公開授業の呼び掛け



## 常任理事会結果報告

### ▲ 第10代 常任理事会 (1次)

日時：2017年 10月 28日(土) 16時

場所：時事日本語社 別館 404号

#### 1. 総務&事務局関連

- 常任理事委嘱状伝達
- 韓国研究財団 学術誌発行支援申請
- 学会の体系的管理(専攻及び連絡先整理、海外会員管理、会費管理等)
- 一般理事推薦者整理
- 学会年間運営計画作成
- 新年会兼2次常任理事会 2018年1月13日(土)予定(17時)

#### 2. 編集関連

- 学術誌第54集進行状況報告
- 第10代編集委員会運営方針:分野別構成及び編集委員、審査(査読)委員委嘱
- 韓国研究財団登載学術誌継続評価準備

#### 3. 学術関連

- 2018年度学術大会主題及び開催校話し合い
- 学術大会要旨集ファイル管理(ホームページ掲載)

#### 4. 財務関連

- 機関会員、10年会員、生涯会員、現況把握及び管理
- 学会発展基金(常任理事会費)調整(専任教授は2年20万ウォン、非専任教授は免除)

#### 5. 国際関連

- 台湾日本語学会参加(12月16日)
- 2018年8月中日対照言語学研究会参加者募集案内

#### 6. 情報関連

- 学会ホームページ更新(学術賞記録アップロード、英語・日本語訳更新、メディアと協力)

#### 7. 広報関連

- ニュースレター(2018-1) 発行準備
- 日本語への翻訳

#### 8. 事業企画関連

- 学会広報パンフレット製作:ハングル版、日本語版
- 事業企画スケジュール確認

#### 9. その他

- 各種委員会委員長選任:研究倫理委員会(委員長 鄭相哲)、学術発展委員会(委員長 高慧植)、日本語教育発展委員会(委員長 早矢仕智子) 等
- 謹弔旗製作及び発送対象の話し合い

## 編集委員会経過報告

### 【54集 編集委員会】

#### ・ 第1次編集委員会 (2017. 10. 20. 時事日本語学院 本館303号室)

- 1) 第54集投稿論文確認及び報告 (23編)
- 2) 第54集投稿論文審査委員選定
- 3) 第54集審査日程論議
- 4) 第54集投稿論文審査依頼(4週間 11月17日締め切り)
- 5) 編集理事引き継ぎ及び新任編集委員会構成

#### ・ 第2次編集委員会 (2017. 11. 17. サイバー編集委員会)

- 1) 第54集審査進行状況確認

#### ・ 第3次編集委員会 (2017. 11. 24. 時事日本語学院 本館203号)

- 1) 第54集投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第54集投稿論文審議結果、13編を掲載することとする
- 3) 第54集審査結果通知及び投稿者への修正依頼

#### ・ 第4次編集委員会 (2017. 12. 2. サイバー編集委員会)

- 1) 第54集投稿者修正内容確認

#### ・ 第5次編集委員会 (2017. 12. 4. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第54集1次刊行作業経過確認
- 2) 第54集1次刊行作業及び校正作業

#### ・ 第6次編集委員会 (2017. 12. 8. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第54集最終校正作業
- 2) 第54集印刷依頼
- 3) 編集委員会の今後の日程の確認

#### ・ 「日本語学研究」第54集発刊 (2017. 12. 20.)



# 『日本語学研究』論文投稿案内

## ■ 投稿規定

### 第1条 (学会誌発刊日程)

		論文投稿締切日
第1回発刊	3月20日	前年12月31日
第2回発刊	6月20日	3月31日
第3回発刊	9月20日	6月30日
第4回発刊	12月20日	9月30日

は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

### 第2条 (投稿資格)

- ①原則的に本学会の会員に限る。
- ②会員との共同投稿者及び招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。
- ③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

### 第3条 (投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

### 第4条 (論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

### 第5条 (掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。

### 第6条 (分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

### 第7条 (投稿論文受付)

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jlk.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の監査が記入の有無を確認する。

### 第8条 (審査)

投稿された論文は審査規定に則り、オフライン編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、オフライン編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の審査担当編集委員(査読委員)1人以上が必ず含まなければならない。

### 第9条 (審査料及び掲載料)

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿の締切日まで、掲載料は掲載用の原稿提出締切日までに入金する。

### 第10条 (校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

### 第11条 (別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。

### 第12条 (著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、当論文のオンライン及びオフライン著作権は本学会に帰属する。

### 第13条 (その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

〉

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。

# 『日本語学研究』投稿要領

## ■ 投稿要領

### 1. 使用言語

は韓国語 日本語または英語で作成する。

### 2. 使用環境

原稿は $\text{A4}$ を使用して作成することを原則とし、 $\text{A4}$ で入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、 $\text{A4}$ を使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

### 3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

### 4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

### 5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

- ① 論文題目
- ② 著者名: 著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。
- ③ 要旨: 要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600語程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例: 論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)
- ④ 研究分野: 二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。  
(例: 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育、(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学 (Other Japanese Studies))
- ⑤ キーワード: 二つの要旨に論文の内容を含まうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。
- ⑥ 本文
- ⑦ 注: 本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。
- ⑧ 用例出典: 原則的に用例の出典を明らかなにする。
- ⑨ 参考文献: 著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一の著者の文献である場合、著者名にする。

例) 高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』表書房 pp.1-5  
김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』제6집 한국일본어학회 pp.1-5  
Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. *Language in Society*, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

### 6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に〈図1〉、〈表1〉のように表示し、必ず題目を記入する。

### 7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

### 8. 外来語表記

ハンゲル正書法の外来語表記法に従う。

## ■ 審査料及び、掲載料入金要領

### [予稿集発刊費]

- 入金期限: 学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)
- 金額: 10,000ウォン

### [審査料]

- 入金期限: 論文投稿締切日
- 金額: 60,000ウォン

### [掲載料]

- 入金期限: 掲載用原稿の提出締切日
  - 金額: 学会発表論文: 一般論文(10万ウォン)、研究費受託論文(20万ウォン)  
無発表論文 : 一般論文(20万ウォン)、研究費受託論文(30万ウォン)
- ※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

### [入金口座]

- 口座番号: 国民銀行 884201-04-150294 (李吉鎔)
- ※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

### [審査及び掲載用論文提出先]

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr/>)から提出する。

## ■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。
  - 種類: 使用者定義、幅170、縦240
  - 余白: 上20、ヘッダー10、下10、フッター0、左15、右15
2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

- 副題目                   ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
- 著者名                   ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
- 要旨                       ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
- ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
  
- 論文分野                ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
- キーワード            ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
- 大見出し                ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
- 中見出し                ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
- 小見出し                ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
- 本文                     ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
- 引用文                 ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt  
(例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
- 脚注                     ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
- 参考文献                ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

\* ホームページの論文作成例示を参考にすること

## 学会ホームページ案内

韓国日本語学会ホームページでは以下のような多様なサービスをご提供しています。会員の方は無料オンライン会員に登録後ご利用くださいますようお願いいたします。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語学研究』論文検索及びダウンロード
4. 学術大会関連情報及び要旨文ダウンロード
5. その他本学会関連情報

HOME | JAPANESE | ENGLISH | CONTACT US

한국일본어학회 韓國日本語學會  
The Japanese Language Association of Korea

아이디  비밀번호  로그인

아이디 찾기 / 비밀번호 찾기 / 회원가입

학회소개    온라인 투고/심사    투고규정    학습지    전망논문

연구윤리규정    학회대회    현장위원회    학습상    뉴스센터    글로벌 네트워크    연계협력연구회    자료실    자유게시판

공지사항    more+

- 『日本語学研究』 제55집 논문 투고 안내    17-12-15
- 第一回東아시아 日本學研究學會 國際シンポジウム    17-11-08
- 釜慶大學 校(韓國) 日本學科 日本人專任敎員    17-10-11
- 한국일본어학회 후원 <일본어입학준비과정>    17-09-13
- 제36회 국제학술대회 프로그램 안내    17-09-06
- 『日本語学研究』 제54집 논문 투고 안내    17-09-06
- 釜慶大學 校(韓國) 日本學科 日本人專任敎員    17-05-26
- 『日本語学研究』 제53집 논문 투고 안내    17-05-21

학회일정    more+

2017년 12월						
일	화	수	목	금	토	일
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

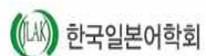
관련 사이트

- NRR 한국연구재단
- RISS
- 일본국제교육기금 서울문화연대
- 국립국어원
- 국립국제연구원

한국일본어학회에서는 연구자의 연구를 존중하고 새로운 지식의 창출을 보호하기 위하여 연구윤리위원회를 주며 운영하고 있습니다.  
연구윤리위원회의 왕치의 문공을 위하여 정보를 제공하고 있습니다.  
연구윤리위원회 위원장 정찬영 (이메일: jupg1024@bnu.ac.kr, 전화: 031-330-4675)

学会 홈페이지 URL  
<http://www.jlak.or.kr/>

The Japanese Language  
Association of Korea



■ 학회사무국	■ 学会事務局
주소: 〒06974 서울시 동작구 흑석로 84 중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실 H.P : 010 · 9028 · 6609(사무국장:조용란)	住所: 06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84 中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室 携帯 : 010 · 9028 · 6609(事務局長:趙容蘭)
E-mail : <a href="mailto:jlak123@hanmail.net">jlak123@hanmail.net</a>	Homepage : <a href="http://www.jlak.or.kr">http://www.jlak.or.kr</a>

ニュースレターでは会員の皆様の新規・変更等の情報をお知らせしています。  
記事の掲載をご希望の方は学会の公式メールアドレス(jlak123@hanmail.net)までお知らせください。